

研究・調査報告書

報告書番号	担当
185	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Effects of intracerebroventricular ethanol on ingestive behavior and induction of c-Fos immunoreactivity in selected brain regions. エタノールの脳室内投与が摂取行動に与える影響と特定の脳部位における c-Fos 免疫反応性の誘導	
執筆者	
Crankshaw DL, Briggs JE, Olszewski PK, Shi Q, Grace MK, Billington CJ, Levine AS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Physiol Behav. 2003, 79(1):113-120.	
キーワード	
エタノール、条件付け味覚嗜好、条件付け味覚嫌悪、c-fos 免疫反応性	
要 旨	
<p>エタノール摂取後の中枢神経系(CNS)の瞬時の変化はほとんどわかっていない。一方、ラットに慢性的にエタノールを脳室内投与するとアルコール摂取への嗜好を誘導することは十分知られている。本研究ではエタノールの脳室内投与が条件付け味覚嗜好 (CTP) または条件付け味覚嫌悪(CTA)を誘導するかについて、また脳内の特定領域で摂食、嫌悪または報酬に関連して c-fos の免疫反応性(c-Fos-IR)が変化するかについての検討を行った。その結果、エタノールに対して、ナイーブラットで急速なエタノールの投与は CTA を誘導せず、水の摂取量も変化させなかった。エタノールの脳室内投与が摂取量や嗜好性に与える影響については、カロリーのない甘味物質 0.1%サッカリン溶液を用いて調べた。その結果、エタノールナイーブラットへのエタノールの単回投与はサッカリンに対する CTP を誘導した。またエタノールの投与は c-Fos-IR の数を摂食や報酬に関連する領域、分界条床核、背側領域、側座核、シェル領域、室傍核；中隔、腹側領域で有意に増加させた。</p> <p>以上の結果から、エタノールは中枢性のメカニズムを通して CTP を誘導するが CTA は誘導せず、摂食や報酬に関連した特異的領域で c-Fos-IR の数を増加させることが示唆された。</p>	